



熊谷次郎直実 法房蓮生法師 ゆかりの地マップ

熊谷次郎直実は、平安時代末期から鎌倉時代初めにかけて活躍した熊谷郷の武士です。源平合戦での活躍が有名で、源頼朝をして「日本一の剛の者」と言わしめました。

しかし、一の谷の戦（1184年）で、自分の息子と同年代の平敦盛を討ち取ってからは戦場に姿を見せなくなり、出家して名を「法力坊蓮生（ほうりきぼうれんせい）」と改め、法然上人（ほうねんしょうにん）の門に入り、修行に励みました。その数奇な一生は、『平家物語』や歌舞伎・浄瑠璃などの文学や演劇の世界でも語られています。

晩年は、熊谷に戻り、念仏を唱えるための草庵を建て、これが熊谷寺（ゆうこくじ）の始まりとされています。

【熊谷寺】 熊谷寺は法力房蓮生法師（熊谷次郎直実）を開山とし、略縁起によれば息子直家の館の大手先に草庵（念仏堂）を結んだことに始まるとされています。蓮生法師が浄土往生を遂げた後も、修行者の念仏道場として法灯を伝え、天正年中（1570～1590頃）に幡随意上人が中興し、熊谷寺と名づけました。現在の本堂は、明治36年から17年の歳月を費やして完成し、大正4年に入仏式が行われました。その後は戦災を免れ、朝日夕日に映え法師の徳をたたえています。（非公開）

【熊谷奴稻荷神社】 直実が戦場にあった時、身辺を護ってくれる者がいたため名を問うと、「そなたが信仰する稲荷の化身だ。」と言って消えてしまいました。そのため、直実が戦場から帰ると屋敷地内に祠を建てて祀ったという言い伝えが元になっている神社です。江戸時代には特に男の子を病魔から守るため、髪を奴姿に刈って、神仏の加護を受けようとしたことから「奴稻荷」と呼ばれるようになりました。

【蓮昭寺（念仏堂）】 幡随意上人が熊谷寺を中興した時、蓮生法師が建てたとされる念仏草庵を、箱田に移したことが始まりとされるお寺です。移した後、荒れてしまった草庵を善念という僧が再建したとされます。その時の話として、観音・勢至菩薩を丹波国から運んだ話、紀伊国屋文左衛門が阿弥陀如来像を寄進した話など、このお寺に関する数々の逸話が伝えられています。

【熊野堂（くまんどう）】 直実の父である直貞が、当時、この地に出没していた熊を退治してその首を埋め、そこにお堂を建てたと伝えられている場所です。現在お堂はなく、石碑が建っているのみです。

【高城神社】 延喜式内社の一つで、創建は平安時代初期とされています。祭神は高皇産霊神で、神社では縁結びの神として祀られています。長年にわたって熊谷郷の総鎮守として栄えてきたとされ、戦国時代に兵火を受けた後、江戸時代には忍城主の阿部氏により再建されました。今でも「胎内くぐり」など様々な年中行事が行われています。

【千形神社】 直実の父である直貞の「熊退治」に関する逸話にまつわる神社です。直貞が熊を退治した際に、熊から血が流れ、その場所に社を建てて「血形明神」を祀ったとの言い伝えがあります。江戸時代には境内で草相撲が行われ、神社には相撲の板番付が奉納されています。

【円光塚】 直実が戦場で乗っていたという名馬、権田栗毛に関する様々な逸話の中の一つにある塚です。その逸話によると、一の谷の戦いで傷を受けた権田栗毛を直実が解き放った際、権田栗毛は故郷の熊谷を目指してはるばる帰ろうとしましたが、目の前の円光の地で力尽き、息絶えたため、村人が憐れんで葬り、建てた墓がこの円光塚と伝えられています。

【報恩寺】 直実には二人の娘がいたと伝えられ、そのうちの一人である玉津留姫が父母の菩提を弔うために建てた、あるいは直実の息子である直家が父の「恩」に「報」ずるために建てた、とされるお寺です。元は現在の熊谷郵便局付近にありましたが、戦災を受けた後、大原の地に移されました。隣接する通称「袖引稲荷」には、玉津留姫とその妹とされる千代鶴姫との逸話が伝わっています。

【福王寺跡】 今は廃寺となっている福王寺跡の墓域に、玉津留姫の墓と伝えられる墓があります。福王寺は明治初年に廃寺となり、現在はお堂を残すのみとなりましたが、『新編武蔵風土記稿』の福王寺の項に、「毘沙門天を祀り、これは直実の娘である玉津留、千代鶴二人の守り本尊である」と書かれています。

【養平寺】 福王寺が廃寺となった後、明治初めごろに直実の娘二人の守り本尊であるという毘沙門天を移したお寺です。玉津留姫の守り本尊は、別に薬師三尊と十二神将が伝えられていますので、養平寺は千代鶴姫の守り本尊として毘沙門天を祀っています。

【東竹院】 12世紀後半に久下重光が建てたとされるお寺です。もとは久下氏の館跡と伝えられている場所辺りにあったのを現在の地に移したとされています。直実は叔父の久下直光に養育されていたことがあり、また久下氏と熊谷氏との領地の境界争いは『吾妻鏡』にも取り上げられるほど有名です。寺内には久下重光・直光父子の供養塔、上杉憲賢の供養塔があります。

【熊久橋】 熊谷の「熊」と久下の「久」を取り、熊谷と久下との境界付近の土地を「熊久（ゆうきゅう）」と呼びます。そこを流れる元荒川に架かっている橋の名前です。熊谷氏と久下氏との境界争いの場所と伝わっています。

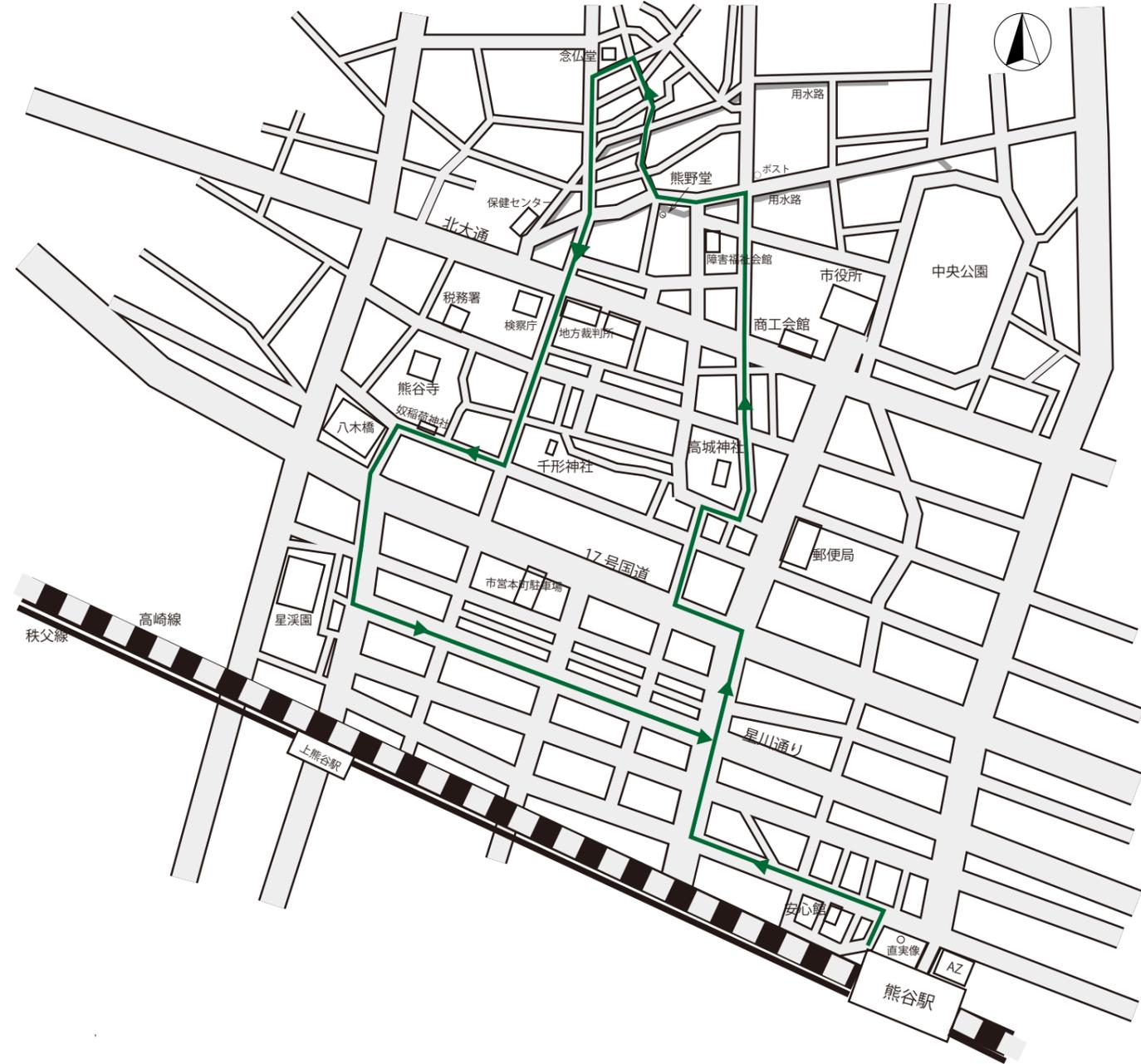
【村岡の市】 現在の熊谷市村岡付近で、国宝の『法然上人行状絵図』によると、蓮生法師が上品上生の予告往生をとげた場所とされています。『法然上人行状絵図』では、蓮生の予告往生を一目見ようと、たくさんの人々が見物に来ている様子が描かれています。蓮生法師が亡くなった時と場所は諸説ありますが、現在有力な場所の一つです。

～参考文献～

- 『熊谷直実』 熊谷市文化連合編 1969年
- 『郷土の雄 熊谷次郎直実』 熊谷市立熊谷図書館 2010年
- 『熊谷の歴史を彩る史跡・文化財・人物』 熊谷市立熊谷図書館 2011年



熊谷駅コース

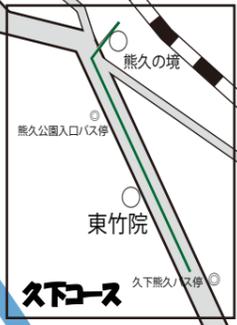
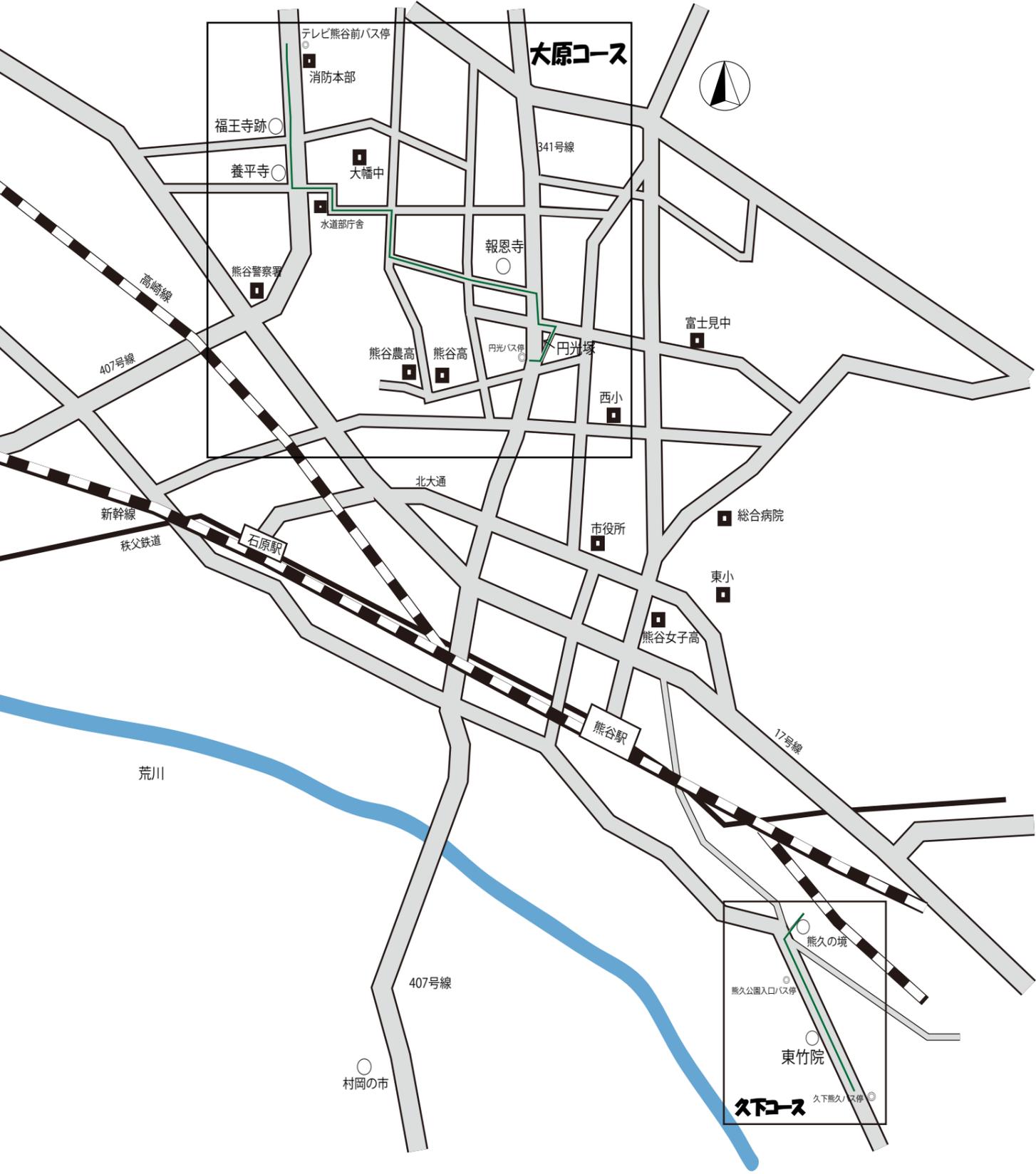


- 【熊谷駅コース】
- 熊谷駅 ← 徒歩1分
- 高城神社 ← 徒歩5分
- 熊野堂(くまんどこう) ← 徒歩3分
- 念仏堂(蓮昭寺) ← 徒歩6分
- 千形神社 ← 徒歩1分
- 奴稻荷神社 ← すく隣
- 熊谷寺 ← 徒歩15分
- 熊谷駅

直実・蓮生ゆかりの地散策コース

- 【大原コース】
- 朝日バス 熊谷駅→太田駅・西小泉駅・妻沼・妻沼聖天前行き 円光バス停下車
- ← 徒歩2分
- 円光塚 ← 徒歩6分
- 報恩寺 ← 徒歩20分
- 養平寺 ← 徒歩5分
- 福王寺跡 ← 徒歩5分
- 朝日バス 妻沼(バイパス経由)→熊谷駅行き
- テレビ熊谷前バス停

- 【久下コース】
- ゆつゆうバス(さくら号)久下熊久バス停下車
- ← 徒歩4分
- 東竹院 ← 徒歩7分
- 熊久橋 ← 徒歩3分
- ゆつゆうバス(さくら号)熊久公園入口バス停



久下コース